研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		中山間地域における自然エネルギーを用いた多自然交流居住地域形成のための社会実験							
研究テーマ (欧文) AZ		A Pilot Program for Creation of Nature-oriented Interactive Neighborhood in Hilly and Mountainous Area with Renewable Energy							
研究代表名	ከタカナ cc	姓)ニシムラ	名)サトル	研究期間 B	2012 ~ 2014 年				
	漢字 CB	西村	知	報告年度 YR	2013 年				
	□-マ字 cz	Nishimura	Satoru	研究機関名	鹿児島大学				
研究代表者 cp 所属機関・職名		鹿児島大学法文学部·教授							

概要 EA (600字~800字程度にまとめてください。)

本研究の目的は、マイクロ水力発電による自然エネルギーを利用した農村コミュニティビジネスの持続的経営の可能性を採算性の観点から解明を行うことである。農山村地域は、高齢化により農業の担い手が減少し耕作放棄地が増えている。また若者の流失によって過疎化がすすみ、商業施設の撤廃などコミュニティが停滞しつつある。鹿児島県霧島市溝辺町竹子地域も人口の減少で生活圏の変化が起きている。商店が減少し普段の生活が困難となり高齢者が不便を感じている。そこで買い物弱者を支援することを企画し、買い物弱者プロジェクトを実施した。農村コミュニティビジネスとして地域で運営している農産物直売店「きらく館」の野菜・弁当・惣菜・豆腐などを宅配し安否確認を兼ねた巡回サービスとなる。無料で宅配するために、小型電気自動車を活用し、その電気エネルギーは地域内に設置したマイクロ水力発電により充電し配達燃料コストを抑えた。支援プロジェクトは現在(2014年10月)も地域住民に引き継がれ実施されている。配達先を分類すると、独居世帯以外の一般世帯、役場、法人企業、地域団体、イベント用など独居世帯以外の注文が84.1%を占めた。結果として独居世帯以外の売上増収分でも買い物弱者への配達を支えた。それは地域の住民と自然エネルギーで地域の需要を満たして独居世帯への宅配を無理なく継続させるコミュニティビジネスの運営に近づいたと言える。マイクロ水力発電の設置費を含めると利益の追求は厳しいが社会的な要求に答えるかたちで続けられる研究となったと言える。

キーワード FA		

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード ℸ△			研究課題番号 🗚					
研究機関番号 AC			シート番号					

発表文献 (この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。)											
雑誌	論文標題GB	地域リソースを有効活用したコミュニティビジネスの展開 ——既存技術の水平展開による技術革新の事例——									
	著者名 GA	馬場 武,市川 英孝,萩野誠,岩川 直浩,西村 知	雑誌名 gc	鹿児島大学法文学部「経済学論集」							
	ページ GF	(近日発行)	発行年 GE	2	0	1	4	巻号 GD	Vol. 83		
雑誌	論文標題GB										
	著者名 GA		雑誌名 GC								
	ページ GF	~	発行年 GE					巻号 GD			
雑	論文標題GB										
粧 誌	著者名 GA		雑誌名 GC								
	ページ GF	~	発行年 GE					巻号 GD			
図書	著者名 HA										
	書名 HC										
	出版者 нв		発行年 HD					総ページ HE			
図書	著者名 HA										
	書名 HC										
	出版者 нв		発行年 HD					総ページ HE			

欧文概要 EZ

Our goal of the research is to understand how the people living in the mountainous area can come up with community business which can bring about employment and contribute to the sustainability of the community. We considered that recycle energy could be a poweffull tool to realize the aim. We have tried social experiment in Takaze settlement which is near Kagoshima Airport. We asked a local shop which deals with the local agricultural products to join our project. We have installed a micro energy plant in the settlement and rented a small electric car. We hired local people to cater the products in the shop to the people in the area by the car. We thought that the catering can help the old people who have difficulty to go shopping. After the several month research, we came to know that the project were nearly sustainable thanks to the big buyers such as a municipal office and younger households. The old people who buy less but more frequent than others were assisted by the project. However, in order the project to be sustainable fully from the financial aspect, we do recommend the government or city support to support.